



小中一貫教育だより  
学校教育課・教育センター版  
令和2年3月25日 No.17  
(小中一貫教育推進だよりから 通算No.88)  
十日町市教育委員会学校教育課



水沢中学校区小中合同陸上練習

※P 7で説明

## 『子どもたちとの貴重な時間の正と負』

学校教育課学事係嘱託指導主事 島田 敏夫

新型コロナウイルスの感染拡大防止のために全国小中学校、高等学校、特別支援学校の臨時休業が行われ、学校は対応に追われ大変な年度末になりました。卒業式の縮小や学年・学級のまとめや振り返り、仲間との思い出づくりなど当たり前に行われていたことができなくなり、貴重な時間が無くなり子どもたちの心にも影響が出ないか心配です。

さて、4月号「指導と評価」に「『早春賦』の思い出」という記事がありました。「早春賦」というと春を待つ何か希望に満ちた温かい思い出かと思いましたが、「早春賦」に反し筆者の苦い思い出でした。小学校時代の学芸会の練習で音楽専門の先生から「早春賦」の独奏担当の筆者が練習中に歌うのを止めさせられ、他の子の歌に合わせロパク役になってしまいました。その後、筆者は中学の音楽でもロパクで過ごし、教育学部の学生になった時にもピアノの教授から見放されました。そして、小学校低学年の担任になったとき「子どもの才能をみつけたり伸ばしたりはできないのだから、決して才能をつぶすようなことばがけをしない」と自身の心に言い聞かせたそうです。

私にも何か似たような思い出があったと、高校2年の英語の授業を思い出しました。英語の先生は指名する時、席順や日にちなどで指名していました。しかし、私の席の近くや名簿番号になるといつも私を飛び越えていくのです。その年、指名された記憶はありません。当初は慌てて調べたり、当たらないように願ったりしていたのでラッキーと思っていました。しかし、次第に英語はダメなんだ、授業を受ける価値がないと思うようになり、英語はますます苦手科目になりました。当時の自尊心と自己有用感は低かったです。担任になったときには、どの子にも等しく接したいと考えました。

教師は、少なからず児童生徒に影響を与えます。私自身も担任した子どもたちにどうかかわったか反省すべきことが多くあります。今年度、各学校では自己有用感を高めるために教職員から貴重な取組してもらいました。ありがとうございました。しかし、年度末に子どもたちとの貴重な時間がなくなりとても寂しく思っている方も多いと思います。このことが子どもたちの経験にとって負にならないことを願っています。

新年度、明るく元気な子どもたちに出会えることを念じています。

## 小中一貫教育

### ■ 有意義な研修となった1日異校種体験研修

今年度は、27人の教員（小学校15人、中学校12人。まつのやま学園は含まない。）が実施しました。各中学校区で日程や内容を工夫し取り組んでいただいたことに感謝します。その内18人の教員（小学校8人、中学校教員10人）が乗り入れ授業を実施しました。中学校教員の中には、小学校の全学年の授業を実施した方もいました。他にも授業参観やTT授業、引率補助など有効な研修が実施されました。実施後の感想から次のような成果を得る有意義な機会になったことが分かりました。



- 小学校教諭から
- ・ 中学校に進学した子どもの成長の姿を見る
  - ・ 義務教育9年間を見据え小学校の指導で何を大切にすることを考える
  - ・ 児童生徒の自立を促す取組を考える
  - ・ 教科の専門性を高める
  - ・ 部活動の教育的効果を考える
  - ・ 中学校と小学校の生徒指導対応の違いを考える など
- 中学校教諭から
- ・ 中学校との雰囲気の違いを感じる
  - ・ 授業での指示の仕方や話し方の違いを考える
  - ・ 子どもの発達段階の違いを考える
  - ・ 教科の系統性を踏まえた指導の大切さを考える
  - ・ 小学校教員との日常の勤務態様の違いを知る
  - ・ 小学生の感性の豊かさを知る など

### ■ 令和元年度「自己有用感」を高める具体的指導（支援）の実践例

共通取組事項である「自己有用感」を高める指導の取組報告を多くの学校から提出いただきありがとうございました。ある学校からは、多くの職員から報告をいただき感謝しています。その中から一部を紹介します。

#### ① 千手小学校『妙高宿泊体験学習～協力で絆を深めよう～』

##### 自己有用感を育てる観点から

###### <居場所づくり>

- ・ 一人一人に役割を与え、全員が活躍できるグループ編成。
- ・ 学習発表会での発表を目標にした、単元のゴール設定

###### <絆づくり>

- ・ 仲間の良さを見つける活動の組織
- ・ 体験したことを言葉でまとめ、言葉で発表する振り返りの工夫



### 工夫した指導（支援）の具体的内容

- ・ 班で行う活動（スタンプ等）を決める際に、班全員で最初から話し合わせるのではなく、少人数（3～4人）のグループになって話し合い活動を設定した。その後、少人数で話し合った結果を基に、班全員でもう一度意見を話し合わせ、活動を行うようにした。
- ・ 集団宿泊活動で体験したことを3つの項目（自分の頑張り、仲間の頑張り、学級全体の頑張り）で振り返らせ、互いに発表し合った。

### 成果が見えた子どもの具体的姿

- ・ 一人一人が意見を出し合う活動を設定したことで、全員が協力して活動に意欲的に取り組む姿が見られた。
- ・ 振り返りで、子どもたち同士がお互いの頑張りや良さを紹介し合う中で、「いいね」「嬉しい」「ありがとう」など肯定的な言葉が多く聞かれた。話し合う際に、明るい表情で取り組む子が多く見られた。

## ②中条中学校 『瞑想&ありがとう日記』

### 自己有用感を育てる観点から

#### <居場所づくり>

- ・ 感謝を想起する取組で、相手を改めて大切に思ったり、自分も大切にされたりすることで価値ある存在だと自覚することにより自己有用感を高める。

#### <絆づくり>

- ・ 終学活でその日の出来事を想起し、そのことに対する感謝の気持ちを記載する活動によって、互いに感謝し合う関係性を育てる。



### 工夫した指導（支援）の具体的内容

- ・ 終学活前に、取組開始を呼び掛ける録音音声と雰囲気醸成するオルゴール音による放送を全校に流すことで、習慣化を図った。
- ・ 毎週末に用紙を回収し、教師から生徒の意見への肯定的なコメントを記入し返却した。
- ・ 取組のよさや良い姿を小中学校ともに便りで発信し、よりよい雰囲気づくりや頑張りを学び合うようにした。
- ・ 安易に認め合い活動と呼びかけたり書かせたりするのではなく、感謝の気持ちを大切に生きる教育を推進した。心身を落ち着かせて自己内対話に導入しやすくし、肯定的に一日を振り返る習慣の定着を促した。そのための日記の書式を工夫し、意欲を維持するため、感謝の視点や表現方法を2週間ごとに加えた。



### 成果が見えた子どもの具体的姿

- ・ 自分に自信がもてなかった抽出児の変容が見られた。互いに感謝を伝え合うことで相手のみならず、自分の頑張りやよさに気が付くことができたためではないかと考える。日常の小さなことにも感謝の意識をもつことで教師からの働きかけがなくとも、生徒の力で良好な関係を構築できるような成長する姿が見られた。

# 教育相談班より

## ■不登校状況と対応

令和2年2月末現在の不登校状況（欠席数30日以上の子どもの数）について、前年度（平成30年度）同時期との比較から、次のような傾向が見えました。

**小学校 昨年度より増加（+2人） 中学校 昨年度より減少（-5人）**

小学校においては、新規不登校児童数が増加傾向にあり、不登校の人数が増えています。登校渋りや遅刻、短時間登校が見られるお子さんに対して、校内委員会等で情報共有、対策を取る等、組織的に早め早めの対応をしていく必要があります。

中学校においては、新規不登校生徒数、完全不登校（1日も学校に通えていない）生徒数が減少しています。不登校の未然防止・不登校生徒への組織的対応の成果の表れと考えます。また、市の適応指導教室（にこやかルーム）を利用して学校復帰につながっている生徒もいます。

今後も**自己有用感、居場所づくりに配慮した学校、学級づくり**に努力いただくとともに、子どもたちの小さな変化に目を向け、気になる子どもへはきめ細やかに組織としてスピード感をもった対応を進めていただきたいこと、そのために**「不登校予防のための早期対応マニュアル」（令和元年度改訂）の積極的な活用**をお願いします。

### 『不登校予防のための早期対応マニュアル』のポイント

#### 1 『生活アンケート』の確実な実施

『生活アンケート』を継続して実施する。不登校予防にかかわる点検を確実に行う。アンケートは短いスパンで行い、報告のあった諸問題に早期に対応していく。

#### 2 『欠席・遅刻カード』を活用した全校体制での情報共有

欠席や遅刻・早退確認、保健室利用などをチェックして、全職員で不適応を起こしている児童生徒の動向を確実につかむ。電話連絡のあり方をもう一度、校内で共有化を図る。

#### 3 「1・2(ワン・ツウ)運動」、「1・1・1(ワン・ワン・ワン)運動」の実践

「欠席を関係職員に伝えた」だけで済ますことなく、個々の状況に応じてすぐに「1・2(ワン・ツウ)運動」、「1・1・1(ワン・ワン・ワン)運動」で児童生徒及び保護者に対応していく。

※『1・2運動』… 欠席1日目：電話連絡、欠席2日目：家庭訪問

※『1・1・1運動』… 欠席1日目から家庭訪問を継続（2学期はじめは特に）

#### 4 「欠席が連続3日・断続3日の欠席児童生徒」及び「別室登校や早退・遅刻が継続している児童生徒」の報告・対応

新たな不登校、または心配される児童生徒については、月末の報告を待たずに、すぐに「電話連絡」及び「不登校連絡シート：様式A・B」を市教委に提出する。月末の報告前に初期対応を進めていく。

#### 5 生徒指導上の諸問題の解決に向けて

不登校及び不登校傾向を起こす児童生徒は、不登校にかかわる問題だけでなく、別の問題行動へと繋がるリスクを背負っている。そうしたリスクを解消する意味からも、不登校予防や早期対応を徹底していく。



## ■いじめの状況といじめの防止に向けて

令和2年2月末現在のいじめの発生状況については、前年度（平成30年度）同時期との比較から、次のような傾向が見えました。

**小学校 昨年度より増加（+26件） 中学校 昨年度より増加（+12件）**

いじめの件数は、昨年度同時期の比較で小中学校とも増加していますが、このことはいじめを積極的に認知し、解消していこうとする学校の姿勢の表れととらえます。文部科学省も「いじめはどこでも起こりうるもの」としてとらえ、「いじめが0（ゼロ）と報告する学校を0（ゼロ）にする」と訴えています。いじめが起こってもそのままにしない、いじめ解消に向けて適切に対応することが大切なのであり、その第一歩が「いじめの早期発見」「いじめの積極的な認知」をすることに他なりません。

いじめの態様は、小学校、中学校とも「冷やかしからかい、悪口、嫌なことを言われる」が一番多く、次に「嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする」、そして「仲間はずし」が続く傾向にあります。小学校では、「叩く、蹴る等の暴力を受ける」「金品を隠される」が多く、中学校では、暴力行為や物隠しが少ない反面、「PCやスマホ等による誹謗中傷や嫌な画像を勝手にアップされる」が多い特徴があります。残念なことに「ズボンおろし」が今年度も小中学校で起こっています。命にかかわる重大ないじめ案件であることを今後も継続して指導していく必要があります。



また、小中学校とも「いじめの発見のきっかけ」は、被害を受けた保護者からの訴えが一番多く、次に被害者本人の訴え、教職員による発見と続きます。教職員による発見では、いじめ現場の直接発見もありますが、アンケートやデイリーライフ（生徒日記等）から発見に至った経緯もあり、児童生徒をきめ細やかに観察することだけでなく様々な方法で児童生徒の様子を把握する必要があります。

いじめ対応は、学校現場においては喫緊かつ重要な課題であり、学校は「いじめが起らないための未然防止に向けた取組」と「いじめが起こった場合の解消に向けた取組」両方の視点から、いじめ対応のあり方を見直す必要があります。

次年度に向けて、現在作成されている各学校の「いじめ防止基本方針」を全職員でもう一度読み直し、より実効性のあるものに改訂していく必要があります。

**<実効性のあるいじめ防止の取組にするために> 職員研修に活用願います**  
(2019年3月県教育委員会刊行「新潟県いじめ等防止のための資料集」参照)

- \*「県教育支援システム」「いじめ対策ポータルサイト」に掲載、ダウンロード可能
- ポイント1 いじめの正確な認知について ーいじめの定義の正しい理解ー
- ポイント2 いじめのサインを見逃さない ー教職員の鋭敏な感覚によるいじめの認知ー
- ポイント3 教職員による抱え込みの防止と組織的対応 ー協働的な指導・相談体制の構築ー
- ポイント4 相談しやすい環境づくり ー教育相談体制の充実ー
- ポイント5 いじめ問題について考え、主体的に行動する態度の育成
- ポイント6 保護者の理解と協力による連携の構築 ー信頼関係に基づく対応ー
- ポイント7 外部機関の力を結集し、いじめ問題に取り組む ー地域・関係機関との連携ー
- ポイント8 記録の重要性 ー管理の徹底ー

## 学習指導班より

### 令和2年度 教育センター学習指導班事業について

前号でもお知らせしましたが、令和2年度は新規事業として「学級経営支援事業」を行います。学級経営は、児童生徒の学校生活や集団生活の基盤であり、人間関係づくりや学習、自己有用感を育む上で重要な教育活動です。当市では、経験の浅い教員が多い状況が続いていることや児童生徒の問題行動や発達特性の多様化により、学級経営に苦慮している教員も見られます。こうしたことを踏まえ、教師の学級経営の力を高めることは、よりよい仲間づくりを生み、学力の向上や不登校の未然防止、自己有用感の育成につながると考えます。WEBQUを実施する対象学年は限られますが、ここでの取り組みを共有し、当市の教育課題解決に繋がりたいと考えています。

また、その他事業の主な変更は、「英語ボランティアガイド養成講座（中高生対象）」は、他課の事業へ移管統合します。

その他の事業は、今年度と同様に実施します。正式には、4月に配付する「教育センター要覧・パンフレット」をご覧ください。日程・会場等をご確認ください。

(以下、前号からの再掲)

#### 【令和2年度の学習班事業の予定】

##### 1：新規事業（予定） = **学級経営支援事業**

- 市内全小学4年と中学1年に対するWEBQUの実施
- WEBQUやその他のQU調査に基づく事例検討会での指導・助言
- 学級づくりにかかわる研修会

##### 2：廃止事業

###### (1) 英語ボランティアガイド養成講座

- 市役所企画政策課事業へ移管統合します。

###### (2) プログラミング教育研修

- 研修は実施しない予定ですが、小学6年理科「電気の利用」での指導に向けて、(株)アーテック社の「アーテックロボ」をレンタルする費用を市教委で予算付けします。



#### 【令和2年度のエキスパート教員研修について】

以下のお二人の先生を令和2年度のエキスパート教員として委嘱しました。来年度の研修に期待し、積極的な参加をお願いします。

- 中条小学校：吉田 真也 先生（情報教育、情報モラル）
- 下条中学校：池田 繁人 先生（数学）

## 学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～4・5月～

日程	内容【会場】	備考
4月 3日(金) 14:15～16:45	新任・転任教職員研修 ① 【情報館】	講師:市教委、教育センター指導主事 他 対象:新任・転任教職員
4月 6日(月) 14:00～16:00	教育支援員研修会 【千手中央コミュニティーセンター】	講師:市教委、教育センター指導主事 他 対象:教育支援員
4月 10日(金) 14:15～16:45	新任・転任教職員研修 ② 【情報館】	講師:市教委、教育センター指導主事 他 対象:新任・転任教職員
4月 16日(木) 15:00～16:30	小中一貫教育統括・校内コーディネーター研修 【千手中央コミュニティーセンター】	講師:市教委小中一貫教育担当他 対象:小中一貫教育統括・校内コーディネーター
4月 30日(木) 14:30～16:30	特別支援教育研修講座 ① 【千手中央コミュニティーセンター】	講師:ふれあいの丘支援学校 校長 小網 輝夫 様 対象:教職員 等
5月	キッズ英語遊び塾 鑑島小    5月15日(金) 橘小      5月22日(金)	

### 【表紙写真の説明】

昨年9月に水沢中学校区で行われた「小中合同陸上練習」の様子です。小学校は5・6年生、中学生は陸上部員の参加でした。全体説明の後、種目毎のグループに分かれ、中学生の指導の下で小学生が練習しました。中学生は、自分が身に着けた知識と技術を使って、師範を示しながら一生懸命教える姿に誇らしさを感じました。小学生は、説明を聞いたり師範を見たりしながら中学生の大人っぽさや技術レベルの高さを感じているように見えました。

他の中学校区でも取り組まれている活動ですが、中学生の自己有用感を引き出し、小学生の中学生への憧れを高める「居場所づくり」「絆づくり」の場になっていると感じました。

